

八丈語の二格形容詞

三樹陽介

本発表では、八丈語の形容詞二項述語文における与格交替の成立条件について論じた。

日本語諸方言では形容詞に先行するガ格（主格）がニ格（与格）と交替し（以下、与格交替）形容詞項にニ格を伴う例がしばしばみられる。下地理則ほか（2018）「与格項形容詞構文について～宮崎県椎葉村尾前方言を中心に～ ver. 2018. 01. 01」（第 43 回九州方言研究会発表資料）は、宮崎県椎葉村尾前方言を例に、与格交替が他動形容詞文に現れ、意味役割・形容詞述語・心的影響に階層があることを指摘している。どのような形容詞において与格交替が成立するのか、他方言にみられる階層が八丈語の与格項形容詞構文にも存在するのか、という観点から、臨地調査で得たデータを基に論じたものである。

末吉方言は他動形容詞文の心情形容詞と感情形容詞のうち、ネガティブな意味を持つ形容詞文においてのみ与格交替が成立し、下地ほか（2018）の暫定二重主語文や、ポジティブな意味を持つ他動形容詞では成立しない。このことは下地（2018）で示された階層に違反しない。末吉方言の場合、必ず第二項から第一項への刺激があることが成立の条件であり、その刺激を発話者が認識していることが与格交替成立に大きく影響を与えている。そのため、暫定二重主語文では与格交替が成立せず、また、他動形容詞であってもポジティブなものは刺激の認識が弱いため成立しにくいものと考ええる。

東日本の方言の与格交替は資料がほとんどなく、与格項形容詞構文は管見の限り既存の談話資料にもほとんど現れていないことから、与格交替の成立条件や階層を明らかにし、他方言との比較を可能にしたことは学術的意義があるものと考ええる。